

■CIS各地報告

<インドネシア-2>

日程	2014年8月14日(木)～27日(水)14日間
場所	・コマツインドネシア ・インドネシア大学
参加者	・大阪大学:工学研究科2名 外国部学部2名 ・インドネシア大学:工学部2名 人文学部2名
引率者	大阪大学5名

<概要>

実習課題として与えられる具体的なものはなく、研修する中で自分たちで課題を発見するというものでした。基本的な講義のあと、グループごとに分かれ、現場視察やインタビューなどの企業実習を行いました。報告書は、グループ間などでも協力しながら作成し、1日では終わらず休日も返上して仕上げました。

課題は、Aグループ(溶接プラント):理系「ブーム部分の接合技術の問題、IQTの問題」・文系「現場における安全管理」、Bグループ(油圧シリンダープラント):理系「工学的視点からみる生産効率の向上」・文系「コミュニケーションの視点から見る生産効率の向上」。

最終報告会では、両グループとも実践的な改善点を提案し、企業からたくさんのコメントもいただき肯定的に評価いただきました。

課題探求型であるため、学生がより自発的積極的に取り組む姿勢が見られ、専門的な技術や知識だけではなく、それを取り巻く環境についての視点も必要であることへの気づきも得られたようです。取り組みは文系理系に分けて行いましたが、文系学生と理系学生が互いに知識を補おうとする姿勢が強く見られ、結果的には1つの問題にそれぞれの分野からアプローチできていました。

事前学習と最終報告会には、インドネシア大学からの教職員の参加もあり、CISプログラムへの理解が得られて共催の意識が高まりました。もとより企業の方々が非常に熱心に指導して下さるので大変充実した研修となりました。

文化体験として、インドネシアの地方文化を知ることのできる公園(ジャカルタ市内)を訪問し、インドネシアの多様性に振れることができたのも実習に寄与していました。